

## 【泉区】令和5年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年2月14日 14時00分～15時40分
場 所	泉区総合庁舎4階 4ABC会議室
出席者	<p>【座 長】 梶村 充 議員</p> <p>【議 員：3人】 麓 理恵 議員、横山 勇太郎 議員、源波 正保 議員</p> <p>【泉 区：30人】 深川 敦子 区長</p> <p>市川 一弘 副区長</p> <p>秋元 秀臣 福祉保健センター長</p> <p>青木 正博 福祉保健センター担当部長</p> <p>安達 秀昭 土木事務所長</p> <p>和田 誠名 泉消防署長</p> <p>ほか 関係職員</p>
議 題	<p>1 令和5年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 松風学園再整備事業の進捗状況について</p> <p>(2) 都市計画道路環状3号線（中田地区）の事業化について</p>

発 言 の 要 旨	<p><b>1 令和5年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について</b></p> <p>麓議員：11 ページ「はぐくもう！地域の力」について。東日本大震災から12年たち、自治会への加入率は横浜市では65%程度と聞いているが、泉区では今どれくらいか。</p> <p>塗師地域振興課長：泉区の自治会町内会への加入率は市全体平均より少し高めの73%。金沢区が77.9%で一番高く、その次が栄区、旭区で、泉区は4番目に高い。ただ、前年度は74.4%であり、年々少しずつ減っている。</p> <p>麓議員：先日、中田地区で意見交換会に参加した。地域のことを担う方々が少なくなっていることや、自治会加入者が自治会費を払う中、防災などいわゆる町全体に関わる部分を自治会の費用で賄っていることに負担感がある、等の声が聞かれた。横浜市の予算では、そうした課題にしっかり対応していくということにはなっていたが、具体的にはどのような内容になるか。</p>
--------------	---

塗師地域振興課長：自治会町内会については、やはり加入率が低くなってきていることが課題。防災など、自治会町内会の皆様の負担感が増えていることも認識している。また、自治会町内会に加入していない住民はどうすればいいのか、という声もいただいている。とくに災害時は防災拠点の運営等、地域の力が必要であるので、加入することで地域活動に力を入れていただければと考えている。加入率を上げるのは簡単なことではないが、新たに転入されてきた方に対し、加入することのメリットや災害時の話などを地道に説明させていただく等の取組を進めている。

麓議員：これをしたら効果的、ということはなかなか見つからないと思うが、ぜひ取組を進めてほしい。

新規で実施する「泉わくわく応援隊」では、お子さんたちに焦点を当て、子供が地域に参加することで保護者も取り込みたいということだと思う。泉区社会福祉協議会と協働で実施するとのことだが、これについて、例えば上飯田地域では、上飯田中学校の生徒が地域の運動会で道具の準備を行う等の取組もある。今回の取組は、学校を通して行うのか、または自治会町内会を通して行うのか。

齋藤福祉保健課長：現在は自治会に働きかけ、地域活動をしている団体等を対象にお話を差し上げているところ。小中学校においては、各家庭へのチラシ配付といったPRをお願いしたいと思っている。いずれは学校を通し、学校のボランティア活動の一環で参加いただけるようになればと思っているが、まずは自治会を通して行っていくのが第一歩と考えている。

麓議員：子供たちの中では、友達が参加するなら一緒に行ってみようか、ということがよくあると思う。学校にあまり負担をかけたくないが、学校を通しての呼びかけも行ってほしい。このような活動に参加する子供が増え、地域の一員としての思いが深まってくれると良いと思う。

11 ページ「いっずんサポート補助金」について、他区でも同様の制度があるのか伺いたい。

土田地域力推進担当課長：他区においても、様々な地域課題を解決するための補助金制度を設けている区がいくつかある。近隣区では瀬谷区、戸塚区など。泉区でも今回新たに補助金制度を設けることで、地域の方々の様々な課題解決の意欲を後押ししていきたい。

麓議員：補助については、予算がなくなったら受付終了ということか。

土田地域力推進担当課長：予算としては300万円を計上しており、1件あたりの補助限度額は25万円。そのため、10件強程度への補助が可能と考えている。初めての試みなので、まずは応募がどれくらいあるかを見て、翌年度以降につなげていきたい。

麓議員：泉区は大変地域活動が盛んな地域なので、この制度に期待してくれる団体等も多いと思う。限りある予算だが、広く活用していただきたいと思う。

24ページ「領家中学校モデル防災訓練」について。多くの地域の方々が参加してくださっていたと思うが、今回の訓練で見えてきた課題はあるか。

原田総務課長：当日に至るまで4、5回、運営委員会を開き、準備をした。前日も夕方にお集まりいただくなど、準備だけでも思いのほか作業量があるということが分かった。当日参加された方や運営委員の方々、他の運営拠点の方々からはおおむね好評をいただいているが、来年以降、領家中と同じ規模で実施できるかという課題はある。また今回、行政からは30人ほどが参加したが、基本は地域で行っていただく訓練であるので、地域でどこまでできるか。今回の訓練を受け、他の拠点でも実施したいという声があがっているので、区役所としても準備のできた拠点に対し、サポートしていきたい。

麓議員：これだけの規模の訓練を行おうとすると、何度も話し合いが必要であるし、同じことを全ての拠点で行っていくのはなかなか難しいだろうと思う。また、ここ3年ほどコロナの影響で防災訓練そのものが行われてこなかったこともあり、もう1度掘り起こしをしていかなくてはならない。24ページ中段に令和5年度以降のことが書かれているが、できれば、区一斉の防災訓練を実施してほしい。やはり、区役所や水道関係などがどう動けるのかも重要。将来的にぜひ目指してほしい。

配付資料「令和5年度予算編成に向けた区提案反映制度」について。「不登校児童・生徒の居場所づくりの推進」は、所管局の対応が「○」になっている。先日の教育委員会の予算勉強会で、現在準備している「ハートフルみなみ事業」のほか、さらに同様の居場所を1か所つくりたいと聞いている。これについては予算が決まり、年度が明けてから募集を開始するとのことだった。この資料で、所管局の対応が「○」になっているということは、もう実施が決定しているということか。

朝倉学校連携・こども担当課長：教育委員会が実施しているハートフルス

ペースやハートフルルームなどの不登校児童生徒支援事業等の施設は、泉区から通うにはどこも遠いということが従来からの課題だった。さらに区役所として、独自の不登校児童生徒支援を行う「一般社団法人かけはし」の取組を支援していく中で、安定した活動拠点がないことや運営を補助する仕組みが必要である等の課題も分かった。このようなことから、不登校児童生徒の居場所を泉区に作る必要性を強く感じ、「区提案反映制度」を活用して泉区から局に事業化を提案した。それに対し教育委員会からは、西部4区で1か所、居場所を整備するということでの予算計上となった。

麓議員：では「ハートフルみなみ事業」と同様の居場所を整備する件とは別の話なのか。

朝倉学校連携・こども担当課長：区提案反映制度で泉区での事業化を提案した結果、泉区に限らず、西部地区で実施するというもの。事業の詳細は教育委員会のほうで組み立てていると聞いている。

麓議員：また教育委員会にもよく聞いてみたいと思うが、泉区の不登校児童生徒の居場所として、一般社団法人が担ってくださっているところもある。大変運営に苦慮されていると聞いている。そうした状況についても区役所としてよく状況を聞き、どんなことができるのか一緒に考えていってほしい。

横山議員：25 ページ「地域防犯対策推進事業」に関連して。年末から、特殊詐欺や空き巣などが大変増えていると感じる。こういった状況について区役所でも把握しているか。

塗師地域振興課長：毎週、警察から区役所にメールが来ており、区内の犯罪発生状況は把握している。区役所で把握した情報は「いずみ安全・安心メール」で登録されている方に毎週配信している。合わせて防犯パトロールの実施や、警察と連携した迷惑電話防止機器の貸出など、特殊詐欺防止のための啓発をはかっている。

横山議員：警察の関連は県議会での話になってくるが、県全域となると広範囲になりすぎてしまう。地域によって犯罪発生状況は異なると思うので、きめ細かい情報をピンポイントで住民に提供するために、横浜市でも効果的な方法で取り組んでいってほしい。

26 ページ「交通安全対策事業」について。最近、道路の白線が消えている箇所が多いと思う。区役所としても消えていると認識しているか、またそれが長期間放置されているという認識かについて伺いたい。

安達泉土木事務所長：白線が消えているという陳情はある。スクールゾーン対策協議会等でも、そのような話が出る。白線にもいろいろあり、たとえば横断歩道等は警察。土木事務所所管の白線は道路の外側線、センターライン等。現在予算審議中だが、道路局のほうでも白線補修等、今まで予算措置できていなかったものについて予算をつけていきたいという話を聞いている。少しでもそういった予算がつけば補修をしていきたい。陳情があった箇所から優先して対応している状況だが、本来は計画的に進めていけるのが理想。

横山議員：新しい需要があって新しい事業を始めることも当然重要だが、既存の施設等はランニングコストかかっており、これからはメンテナンスの時代が長く続いていく。新しいものに予算をつけるだけでなく、現状維持にも注力して行政運営していただきたい。

源波議員：資料の説明の中で動画が複数放映されたが、良くできていると思った。制作した課は違うと思うが、現在の取組の状況と、今後どのように展開していくのか、聞きたい。

河村区政推進課長：最初に御覧いただいた定住・転入促進事業の動画は、有志の職員から成るプロジェクト体制の中で制作した。技術的な作業は業者に発注したが、どのような構成にするか、どういった泉区の良さを伝えたいか、どういう場面を見せたいか等、区職員のアイデアでつくった。昨年度までに制作した動画の長さは15秒または30秒であり、どちらかというイメージ動画だった。今回の動画は、泉区に興味持っていた方に対し、実際に泉区で暮らすとこんな良いことがある、こんな素敵な暮らしがある、こんなスローライフがあるということを実感していただくことを目的に制作した。今後、この動画をより多くの方々に見ていただきたい。

また、定住・転入促進事業は、資料にも記載させていただいたとおり、多様な方々と一緒に「#住むなら泉区」というキーワードでつながり、様々な媒体を用いて情報発信していくという方向に向かっている。12月に開催した泉区SNSフォロワー等交流会でも、「I LOVE YOKOHAMA」という登録者が約32,000人、その中の泉区交流会だけでも約1,300人がいるfacebookグループの方々ともつながることができた。泉区の情報はこちらのSNSで発信していただくといったような、SNS同士での連携も始まっている。今後も、まだ見ぬ情報発信者とつながっていくこと、それから、ローカルライターのように情報発信者になっていた

だけの区民の方々を発掘、育成していくことも大事な視点とと思っている。多くの泉区ファンを巻き込み、様々な主体をゆるやかにつなぎながら泉区の魅力を発信していくような事業展開をしていきたい。

源波議員：動画の中で、泉区に実際に住んでいる方が登場するというのはとても良い。これまでの積み重ねもあり、今回さらに情報発信を強化していくということで、かなり影響力があると思う。一層取組を進めてもらいたい。

12 ページのコラム「地域力支援事業～「泉わくわく応援隊」が発足します！～」について。「住むなら泉区」と発信していくことと、子育てしやすい街ということを考えてときに、特に子供たちに焦点を当てるのが重要。子供たち自らが地域に関わって活躍できる、さらに主体となって考える、というところまでつながると良い。街づくりを考えるときに、子供たちに参加してもらおうと良いアイデアが出てくる。このコラムの中でもあるように、地域で活動することで学校では得られないような達成感を味わったり、自分の得意な分野で力が発揮できたりすることで自信をつけていく。さらに、まちづくりに関わることも提案してくれるような子も出てくる。このような発展性や将来性についても発信できるといい。子供がまちもつくっていくという発想、視点は未来の泉区を考えたときにとっても重要だと感じる。そういった意味で、この取組は良い着眼点だと思う。以前から、初めて地域に関わるのは退職後、という話が多かった。担い手不足をどう解決するかということから始まっているが、子供に視点を当てると、それが実は子育て支援や、子供たちがまちをつくっていくことにもつながる。発展性のある話だ。単に課題解決を目指すだけでなく、そこから新しいものが生まれるだろうなということが想像できる内容で、興味が深まった。とても大事な視点で、他の施策にも活かしていかななくてはならないと感じたが、見解は。

河村区政推進課長：今回、泉区の令和5年度予算編成にあたり、「子供が主役になる」ということがひとつ大きなテーマだった。泉区わくわく応援隊もそうだが、4つの施策の柱それぞれに、子供が主役になって親子でいろんな事業に参加できる仕掛けを新規に盛り込んでいる。たとえば施策2では、脱炭素化推進事業の中で、子供の学びのきっかけとなるような啓発キャンペーンを新たに実施する。施策3でも、防災対策事業において、小学生を対象としたリモート型防災アトラクションなどを

通じ、親子で防災を学んでいただけるようになっている。このように、親子でいろいろなことを学び、そして地域の中で子育てをしていく、というのが予算の大きなテーマとなっていると思う。こういった取組により得られる要素がたくさんあると思うので、多方面に波及させてきたい。

梶村議員：教員の働き方改革で、部活動については地域移行が進んでいく。中田小学校と東中田小学校のマーチングバンドは地域でしっかりと面倒を見ていこうということで決定しているようだが、他の地域や部活動でも、地域移行に係る問題が出てくるだろうと思う。区役所でできることがあれば支援してもらいたいと思うが、どうか。

朝倉学校連携・こども担当課長：横浜市でも部活動の地域移行を進めているが、小学校のマーチングバンドについては、教育委員会に確認したところ中学校での部活動とは異なるものと言われている。ただ、学校で設置したマーチングバンドやクラブについては教育委員会のほうで継続的に支援していく考えを持っているとのこと。区役所でも従来から、学校・家庭・地域連携事業により、補助金等の支援を行っている。中田小学校と東中田小学校のマーチングバンドについては、地域のイベントの際にその補助金を活用して活動してもらっている。引き続き地域の意向や、学校事情を踏まえ、連携を進めていきたい。

梶村議員：ぜひお願いしたい。

それから、中田地区での意見交換会で出ていたことだが、中田小学校は教員の働き方改革で8時15分にならないと正門が開かないとのことだ。正門が開くまでの15分間ほど子供が待ってしまっている状況になっている。中田小学校だけの話ではないと思うが、寒い時期に外で待たせるのはどうか。まして中田小学校の前は道路が広いわけでもなく、歩道もない。教職員の当番制でも開門する等でもいいので、外で子供たちを待たせるのは良くないと思う。教育委員会にも伝えてあるが、学校側とよく協議してみしてほしい。

深川区長：いただいたご意見は学校長連絡会などで、区役所からも伝えていく。教員の働き方改革も必要で、どこの学校も正門を開ける時間はおおむね8時頃と聞いている。どうしても子供達は早く登校しがちだが、正門の前で待っているのはやはり危ないことが多い。保護者に登校時間の調整についてお願いするなど、いろいろな形で学校と連携していきたい。地域の方々も校門の前に立って声掛けや見守りなど活動して

いただいているので、先ほど話に出た学校・家庭・地域連携事業による対応等も含めて、関係者にそれぞれご協力をお願いしていきたい。学校にも状況はお伝えしていく。

梶村議員：地域防災拠点の運営委員について。任意団体と聞いたが、このような大事なことも任意団体で運営されているのか。どういう形で任命しているか。防災物品の在庫照会等も全て運営委員が行うなど、結構大変だとのこと。何年も同じメンバーが運営して、そのメンバーでないと分からないこともあると聞いた。そのあたりの状況はどうか。

原田総務課長：地域防災拠点の運営委員については、地域でルールを作ってもらい、メンバーを選出していただいている。メンバーが毎年代わる拠点もある。区役所からは、運営経費について局の区配予算による補助金をお出ししている。メンバー選定の難しさについてのお声も聞いている。町内会の役員の方が委員になっていただいているところもあるが、地域拠点の拠点としての防災訓練もある一方、町の防災組織の防災訓練があり、1人の方がいろいろなことをしなければならず、非常に厳しいという状況も伺っている。引き続き、局とも状況を共有しながら連携していきたいと思っている。地域協議会の中でも、拠点の運営に係る課題や、新しい担い手の掘り起こし等についての話し合いがされている。区役所でも引き続きさまざまな協力、支援をさせていただきたいと思っている。

## 2 その他

### (1) 松風学園再整備事業の進捗状況について

とくになし

### (2) 都市計画道路環状3号線（中田地区）の事業化について

梶村議員：建物は何件くらいが当たるのか。

高橋道路局建設課担当課長：20件ほどになる。

横山議員：開通はまだ先のことだが、住宅街なので、騒音等の心配がある。

高橋道路局建設課担当課長：都市計画道路を新たに作る場合は、低騒音舗装を採用することが一般的であり、振動についても歩道3.5mの離隔が取れるため、基準値を超えるほどの騒音・振動が発生しないよう検討する。その上で開通後、沿線住民から基準を超えるような申出があれば、現地で調査をする等、丁寧に対応していきたい。



横山議員：極力、地域が納得してから着工していただきたいと思う。

麓議員：今回は中田地区の状況についての説明だが、中田汲沢地区はどのような状況になっているか。

高橋道路局建設課担当課長：中田汲沢地区においては、現在は特段用地を積極的に取得したり、設計を進めたりしている状況ではない。今後、中田地区を進めていき、その上で段階的に中田汲沢地区も事業を進めていければと考えている。

梶村議員：深谷通信所跡地とも絡んでくるので、両地区に整理できる部分があるのであれば、続けてやってほしい。

高橋道路局建設課担当課長：中田汲沢地区は先行取得制度を利用して用地を一部取得している。中田地区はこれから用地から買い始めるため、今後、中田汲沢地区と中田地区を同じようなタイミングで事業を進めていけるよう検討していきたい。

## 5 その他

横山議員：ゆめが丘地区の開発について。完成したあかつきには夜間人口が5,000人から5,500人増えると言われている。大きな新しい町ができると思う。ここまでの事業は市内でもそう多くはないと感じている。新しい街をつくるにあたって新しい生活様式、システムなどを取り入れていってほしく、今後、どこの局が担当になるか模索しながら進めていこうと思っている。いま分かる段階で、ゆめが丘地区の中に行政機関、行政施設、出張所等ができる構想はあるか。

河村区政推進課長：今確認できる情報では、大きな行政機関や行政の機能はない。医療関係は工事が始まっているが。

横山議員：消防の出張所もないか。

河村区政推進課長：現在の情報では聞いていない。

備 考